

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【公開番号】特開2010-98710(P2010-98710A)

【公開日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-104084(P2009-104084)

【国際特許分類】

H 04 N 7/32 (2006.01)

【F I】

H 04 N 7/137 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月18日(2012.4.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項31

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項31】

前記位置設定ステップでは、前記参照画像リストに前記新規参照画像が含まれない場合には、前記新規参照画像が前記参照画像リストに含まれないことを示す前記位置情報を生成し、

前記エントロピー符号化ステップでは、前記新規参照画像が前記参照画像リストに含まれないことを示す前記位置情報をエンタロピー符号化し、

前記予測信号生成ステップでは、前記新規参照画像を含まないように前記参照画像リストを更新する、

ことを特徴とする請求項29又は30に記載の動画像符号化方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

なお、上記のような新規参照画像の生成においては、式(1)に示すとおり、観測行列Cはベクトル $x_t, x_{t+1}, x_{t+2}, x_{t+3}, x_{t+4}$ から求められており、フレームメモリ104に過去に参照画像生成部113によって追加された新規参照画像は用いられない。但し、新規参照画像の信頼度が高い場合には観測行列Cなどの算出にそれを用いてもよい。また、新規参照画像の生成においては、特異値分解以外の方法を用いてもよい。例えば、固有値分解、LU分解、コレスキ分解が挙げられる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 9 】

